



平成 29 年 10 月 24 日

各位

上場会社名 東邦亜鉛株式会社
代表者 代表取締役社長 丸崎 公康
(コード番号 5707)
問合せ先責任者 経理部長 田邊 正樹
(TEL 03-6212-1716)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 29 年 5 月 11 日に公表した平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）及び平成 30 年 3 月期通期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の業績予想を、以下のとおり修正することとしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	58,000	2,800	2,500	1,800	132.56
今回修正予想(B)	63,500	6,000	6,000	4,700	346.12
増減額(B-A)	5,500	3,200	3,500	2,900	
増減率(%)	9.5	114.3	140.0	161.1	
(参考) 前第 2 四半期実績 (平成 29 年 3 月期第 2 四 半期)	48,262	2,685	2,648	1,929	142.09

当社は平成 29 年 10 月 1 日付で普通株式 10 株を 1 株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1 株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 平成 30 年 3 月期連結業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	118,000	7,450	7,000	5,700	419.76
今回修正予想(B)	125,000	10,500	10,500	9,000	662.78
増減額(B-A)	7,000	3,050	3,500	3,300	
増減率(%)	5.9	40.9	50.0	57.9	
(参考) 前期連結実績 (平成 29 年 3 月期)	113,952	12,766	12,541	8,814	649.08

当社は平成 29 年 10 月 1 日付で普通株式 10 株を 1 株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益を算定しております。

3. 修正の理由

(第 2 四半期累計期間)

売上高は、亜鉛・鉛の金属相場が当初想定を上回ったことや増販の影響もあり、前回公表値を上回る見込みです。利益につきましても、金属相場が当初想定を上回ったことから、製錬事業においては在庫評価益が計上されたこと、資源事業においても相場高の影響が大きく、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前回公表値に比して増益となる見込みです。

(通期)

通期予想値の前提となる下期の市況ですが、今後の市況の動きが現段階では見極めにくいいため、今回の修正においては上期の実績をベースとしております。この市況前提に基づいた下期予想に上期実績を加えて通期予想としております。配当予想につきましては、今回は前回予想を据え置くことといたします。

(金属価格・為替の予想前提)

	前回公表			今回修正		
	上期	下期	通期	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 (予想)
亜鉛 LME(US\$/t)	2,500	2,500	2,500	2,780	2,800	2,790
鉛 LME(US\$/t)	2,100	2,100	2,100	2,249	2,300	2,275
銀 LDN(US\$/oz)	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0
為替(¥/US\$)	110.00	110.00	110.00	111.06	110.00	110.53
為替(US\$/A\$)*	0.75	0.75	0.75	0.76	0.77	0.76

*：豪州子会社の会計期間より、上期は 1 月～6 月、下期は 7 月～12 月、通期は 1 月～12 月の為替相場を示します。

4. 説明資料

業績予想修正説明資料を別途当社ウェブサイトで開示しておりますのでご参照ください。

(注) 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上